女性の本と
女性の為の
情報をお知
らせする
ウイメンズ
ブック
友の会会報

ウイメンズ ブックス

Women's Books

第8号
1983年
9月20日発行
(年会費 1,500円)

ウイメンズ ブックストア
発行所 有限会社 松香堂書店
602 京都市上京区下立売通西洞院西入る
電話 075-441-6905
振替貯金口座 京都8-7950

ウイメンズ ブック 目録 (8)

このリストの書籍を，御希望の方は，同封の振替用紙の通信欄でお申込み下さい。書籍代は送料共でお振込み下さいますようお願い致します。
ご注文の本の定価の合計額に，右の表の送料を合せてお送り下さい。なお，お電話でのご注文も受け付けています。

1,000円以下の場合	300円
1,001円～ 3,000円の場合	400円
3,001円～ 5,000円の場合	500円
5,001円～10,000円の場合	600円
10,001円以上の場合	700円

(各項末尾の番号はウイメンズブックストアの書籍整理番号です)

女性史 (50音順)

【あ】

「あゝ野麦峠」 山本茂美 角川書店 1980年 420円
飛騨の娘たちの群れが野麦峠を越えた一元工女の証言をもとに近代日本の素顔を浮彫りにした記録文学の傑作。 〔0962〕

「会津鶴ケ城の女たち—女たちの戊辰戦争」 阿達義雄 歴史春秋社 1981年 1500円
会津武士の妻・母・娘たちにとって戊辰戦争は何んであったか。女たちの姿を赤裸々に描く。 〔0979〕

「愛と激動—時代を生きた女たち」 女性解放とコンミューン新しい地平線 柘植書房 1976年 1200円
10人の執筆者がそれぞれに10人の女性を担当，その生き方を論じる。
イプセン 人形の家—駒尺喜美 ローザ・ルクセンブルク—伊藤成彦 シモーヌ・ヴェイユ—渡辺一民 宮本百合子—中村智子他 〔0948〕

「アメリカ史のなかの女性」 ペイジ・スミス 東浦めい 研究社 1977年 2500円
アメリカ建国史学者ペイジ・スミス (1917～) によるアメリカ女性史。
明治以来日本女性の先駆者たちに大きな影響を与えたアメリカ女性の業績を知る上でも参考になる。ストー夫人，サンガー夫人らから無名の女性まで。 〔1112〕

「アメリカ女性解放史」 池上千寿子 亜紀書房 1972年 700円
アメリカ ウーマンズ・リブの背景となったアメリカの女たちの歴史を描く。レディ・ファーストに代表される単純なアメリカ女性に対するイメージは本書によって一掃されるはずである。 〔1113〕

「アメリカ女性史」 E．ホシノ・アルトバック 田中寿美子訳 新潮社 1976年 980円
日系アメリカ人の女性によって書かれた植民地時代から現代にいたるまでのアメリカ女性史の総合入門書。アメリカ女性の家庭生活・労働・フェミニズムの三つの基本的なテーマを中心にまとめられている。 〔1114〕

「ある華族の昭和史」 酒井美意子 主婦と生活社 1982年 980円
華麗な上流社会，閉された世界に生まれ育ち，敗戦によるどん底生活，戦後をしたたかに生き抜いてきた女性の昭和史への証言。 〔0286〕

【い】

「家と女性の歴史」 大竹秀男 弘文堂 1977年 1300円
第7号 目録 “結婚・家庭・家族” p.1 参照 〔1644〕

「イギリス小説の女性たち」 鷲見八重子・岡村直美 勁草書房 1983年 2200円
J．オースティン「説得」 C．ブロンテ「ジェイン・エア」 T．ハーディ「日蔭者ジュード」 D．H．ロレンス「チャタレイ夫人の恋人」 M．ドラブル「碾臼」などに描かれた女性像を論じる。 〔0696〕

「イギリス女流作家群像」 福田陸太郎 駿々堂 1983年 2800円
女性作家そのものに光をあてて，その人と文学を考察。作家の経歴，代表的な作品の内容の解説。 〔1219〕

「いくさ世を生きて—沖縄戦の女たち」 真尾悦子 筑摩書房 1981年 1200円
沖縄戦の住民の犠牲者10余万人，そのほとんどが老幼婦女子であった。体験者たちを尋ね歩き，沖縄戦の実態を描き，残忍を極めた戦争体験談を通して基地を観光の島に風化させてしまってはならないと訴えるルポ。〔1218〕

「イタリア婦人解放闘争史—ファシズム戦争との苦闘50年」 N. スパーノ 柴山恵美子訳 御茶の水書房 1979年 2000円

ファシズムへの抵抗・レジスタンスと解放戦争・男女平等法・新母親労働者保護法などイタリア婦人解放運動の展開と軌跡を豊富な資料に基づき全容が明らかにされている。 〔1111〕

「一億人の昭和史—三代の女たち」 毎日新聞社 1981年 各1500円

写真集による女性史。写真による貴重な資料をもとに，日本女性の素顔をクローズ・アップ

(上) 明治大正編 〔0851〕
(中) 昭和 戦前編 〔0852〕
(下) 昭和 戦後編 〔0853〕

「いろまち燃えた—福原遊廓戦災ノート」 君本昌久 三省堂 1983年 1200円

燃えつきて蜃気楼になってしまった街福原遊廓。疎外された犠牲者，遊女・女郎の戦災のドキュメント。〔8001〕

【う】

「植木枝盛と女たち」 外崎光広 ドメス出版 1976年 1200円

自由民権運動の理論的指導者の著者植木枝盛は婦人問題についての最高の理論家である。彼と協力した先駆的女性を枝盛の理論や運動を背景にしながらとり上げる。 〔1175〕

「采（うねめ）女」 門脇禎二 中央公論社 1965年 360円

采女の起り 白鳳の采女 平城京の采女 采女の没落他 〔1174〕

「運動にかけた女たち—戦前婦人運動への証言」 鈴木裕子 ドメス出版 1980年 1300円

左翼婦人労働運動の先駆。昭和恐慌と総同盟系婦人運動恐慌下の埼玉農民運動など運動にかかわった人々の証言。 〔0942〕

【え】

「江戸後期の女性たち」 関民子 亜紀書房 1980年 1500円

幕藩解体期の江戸町人女性 幕藩制的女性像への反逆 江戸後期知識人女性の自立への動向—只野真葛とその理想 幕末漢詩壇と女性詩人の自立への動向他。 〔0946〕

「江戸城大奥の生活 生活史叢書7」 高柳金芳 雄山閣 1980年 2000円

大奥の乱れは天下をゆるがしたといわれるほど幕府における大奥の陰の役割は大きかった。その諸制度，階級，生活はいかなるものであったかを描く。 〔1201〕

【お】

「おっかあの戦後史—ある農婦の生活記録」 河合真帆 崙書房 1980年 580円

千葉の農婦の家計簿日記にみる農家の主婦の戦後史。 〔1194〕

「女がつづる25年」 こだまの会・読売新聞婦人部共編 読売新聞社 1982年 980円

読売新聞婦人面のコラム“赤でんわ”に掲載された投書の中から精選250編に戦後日本女性のたどった足跡をみる。 〔0976〕

「女たちの近代」 近代女性史研究会 柏書房 1978年 1800円

近代女性史研究会会員の女性史に関する論文。樋口一葉の思想 与謝野晶子の女性論 初期愛国婦人会論 羽仁もと子の思想 女性と米騒動など。 〔0931〕

「女の系譜—内なる女性史」 河野信子編 太平出版社 1973年 1300円

10余名の女性たちが自分史をつづる。キリスト者の家系のなかで 抗夫の娘と八路軍女兵 あるからゆきさんの生涯など 〔1177〕

「おんなの戦後史」 もろさわようこ 未来社 1971年 1200円

女性史と女性問題に一貫して取り組んできた著者が，苛酷な差別のもとで底辺をささえたおんなたちの歴史的なかかわりから掘り起こし，現代の女性たちがかかえている問題を提起する。 〔0945〕

「おんなの歴史」 もろさわようこ 未来社 1970年

おんなの位置は古代からどのように変遷してきたか。本書は各時代を生きた女を“愛”と“家庭”を中心に考察

上巻—原始・古代・中世・近世篇 1000円 〔0817〕
下巻—近代・現代篇 1200円 〔0818〕

「女の歴史—女と労働の歴史的省察」 J.L. デーヴィーズ 須賀照雄訳 批評社 1979年 1500円

原始社会の女性 古代文明諸国の女性 初期キリスト教会と女性 中世時代と魔女 近代—女らしさから理知的な女へ 〔0949〕

【か】

「海峡の女たち」 林えいだい 葦書房 1983年 1600円

石炭積み出し港とにしてえた関門港の女沖仲仕“女ごんぞう”と呼ばれた女たちから聞き書きしたもの。エネルギー革命による閉山に伴い“女ごんぞう”たちも消えゆく運命にある。本号 p. 13 もご参照下さい。 〔1209〕

「解放の光と影—おんなたちの歩んだ戦後」 もろさわようこ ドメス出版 1983年 最新刊 1300円

著者の「おんなの戦後史」〔0945〕執筆より10年たった今，出版された戦後の女性史。理論よりも現場を大切に女性解放にとりくんでいるもろさわようこは“歴史をひらくはじめの家”を長野県につくり，女たちの交流を深めている。 〔1238〕

「風の慟哭—在日朝鮮人女工の生活と歴史」 金賛汀他 田畑書店 1977年 1500円

日本紡績製糸史などの資料からすっぽり抜けた朝鮮人女子労働者。日本資本主義の最底辺で搾取されたオモニたちを聞き書きにより記録。著者には「朝鮮人女工のうた」〔1160〕もある。あわせてご参照下さい。 〔1103〕

「鎌倉浄土宗と女性」 源淳子 永田文昌堂 1981年 2200円

仏教の立場から女性解放の問題を考える。 〔1239〕

「竈（かまど）のうた—娘がつづる母たちの歴史」 新潟市女性史クラブ 考古堂 1981年 1200円

新潟の女性史。明治・大正・昭和三代を生きた女たちに学ぶ。 〔1237〕

「からゆきさん」 森崎和江 朝日新聞社 1976年 1100円

南方で財をなし自殺し果てたヨシ，国境に売られ狂死したキミ。二人の数奇な運命を軸にけなげに生きる棄民の運命を描く。 〔0950〕

「考える女たち」　三枝和子編　南柯書房　1980年　1200円
終戦直後，女子の大学教育の草分け時代に学んだ関西学院女子卒業生たちの自分史。本号書評をご参照下さい。〔1240〕

【き】

「京都御所平安内裏物語」　斉藤雅子　三一書房　1979年　1300円
文化芸術の花が咲き，愛情と陰謀が渦巻き，怨霊と鬼が出没する平安内裏を現代の感覚で描き出す。〔0954〕

「共同討議　戦後婦人問題史」一番ケ瀬康子編著　ドメス出版　1971年　1800円
婦人の法律的地位の変化　婦人参政権の行使　敗戦による非連続・連続　戦後農村婦人の変容　共同研究の成果をまとめたもの。〔0915〕

「近世史のなかの女たち」　水江蓮子　日本放送出版会　1983年　750円
時代のうねりに流されながらも，確かな足跡を刻んだ戦国から江戸・幕末に至る近世の女性たちの姿を描き出す。〔1185〕

「近代熊本の女たち　上」　家族史研究会　熊本日日新聞社　1981年　1300円
高野逸枝を生んだ熊本の地方女性史版。明治以後活躍した熊本の女性の足跡をたどる。下巻に女性史年表をのせている。〔5066〕

「近代熊本の女たち　下」　1300円〔5067〕

「近代史の女」　村上信彦　大和書房　1980年　1400円
人物からみた女性史入門書。近代の黎明期に真実に生きた女性の精神的遺産から多くのことが学べる。本書に登場する女性一中島俊子，青山光子，清水紫琴，相馬黒光，伊藤野枝，高群逸枝他。〔0951〕

「近代女性精神史」　河野信子　大和書房　1982年　1800円
近代女性思想史の概論。著者の解放思想論を展開し，近代科学思想史を批判。〔1202〕

「近代日本看護史一日本赤十字社と看護婦」　亀山美知子　ドメス出版　1983年　3800円
女性史の視点より日本赤十字社を中心に看護婦の歴史を概説。〔1247〕

「近代日本史の中の女性」　金原左門，吉見周子他　毎日新聞社　1980年　1500円
「日本史の中の女性」〔0927〕の近代篇。東アジアの中の日本近代　自由民権運動と女性　家を支えた女性　女子教育と婦人雑誌　戦争と女性他〔0922〕

「近代日本女性史」　福地重孝　雪華社　1983年　1200円
明治維新から第二次大戦後までの女性史。〔0908〕

「近代日本女性史1一教育」　渋川久子　鹿島出版会　1970年　1800円
矢島楫子　下田歌子　鳩山春子　津田梅子　吉岡弥生　羽仁もと子ら，それぞれの教育思想をもち，女子教育を推進してきた先駆者たちを描く。〔0967〕

「近代日本女性史2一婦人参政権」　吉見周子　鹿島出版会　1971年　1800円
婦人参政権獲得の過程を近代日本における女性の生活と女性解放運動の展開の中で捉え，その思想と運動を担った人々の人間関係をも描く。〔0968〕

「近代日本女性史　上」　米田佐代子　日本出版社　1972年　580円
明治維新以降，差別と抑圧のなかで生きた女性たちのめざめとたたかいを描き現代につながる婦人解放のみちすじを跡づける。〔0819〕

「近代日本女性史　下」　米田佐代子　新日本出版社　1972年　620円
大恐慌から太平洋戦争への暗黒の時代，そして戦後史を女性たちはどのように生きたか。侵略戦争とのたたかい，軍国の母・妻・娘たち，戦後民主化をめざしてなど〔0820〕

「近代日本女性史への証言」　歴史評論編集部編　ドメス出版　1979年　1500円
婦人解放，婦人運動に先駆者として参加し，組織した人々に時代の証言を聞く。山川菊枝・市川房枝・丸岡秀子・帯刀貞代の4名をとり上げている。〔0910〕

「近代日本の女性史　全12巻」　円地文子監修　集英社　1980—1981年　各1300円
女流作家・女流評論家・女流歴史学者が描く女性史。「人物日本の女性史」(0827—0838) の姉妹篇。

1　恋に燃え愛に生きる〔0839〕
　柳原白蓮・芳川鎌子・波多野秋子他
2　文芸復興の才女たち〔0840〕
　樋口一葉・与謝野晶子・杉田久女他
3　華麗なる美の創造〔0841〕
　山下りん・上村松園・嚴本真理他
4　激動期の妻たち〔0842〕
　乃木静子・初代お鯉・従軍看護婦他
5　芸道の花開くとき〔0843〕
　松井須磨子・松旭斎天勝・水谷八重子他
6　事業への理想と情熱〔0844〕
　相馬黒光（中村屋）　吉本せい（吉本興業）他
7　国際舞台の女性たち〔0845〕
　小泉節子（小泉八雲の妻）　河原操子（対露スパイ）他
8　自由と解放と信仰と〔0846〕
　出口なお（大本教）　岸田俊子（自由民権運動）　平塚らいてう（青鞜）他
9　学問　教育の道ひらく〔0847〕
　安井てつ（東京女子大学）　大妻コタカ（大妻学園）　沢田美喜（サンダース・ホーム）他
10　名作を彩るモデルたち〔0848〕
　或る女（佐久城信子）　智恵子抄（高村智恵子）
11　苦難と栄光の先駆者〔0849〕
　羽仁もと子，人見絹枝，乃位ヤエ他
12　愛憎の罪に泣く〔0850〕
　高橋伝（呉服商殺し）　志賀暁子（堕胎事件）

「近代日本婦人教育史」　千野陽一　ドメス出版　1979年　3300円
自由民権運動と婦人の学習　キリスト教主義婦人団体の活動と学習　仏教婦人会の組織化と婦人教化活動　大陸侵略戦争と婦人の集団活動など第二次大戦までの既婚女性を中心とした教育・学習活動の歴史的展開の過程を究明。〔0909〕

【け】

「現代日本女性史」　井上清　三一書房　1962年　550円
女性解放思想に立って第2次大戦後から現在までの日本女性の生活・地位社会的活動と解放運動の足跡をたどる。著者の「日本女性史」〔0865〕の続篇。〔0864〕

「現代婦人運動史年表」　三井禮子編　三一書房
1963年　1400円
戦後，最初の総合的な婦人運動史年表。1868年—1959年まで　婦人の思想的・実践的動きを中心に時勢の移りと対比しながらまとめられている。〔1222〕

【こ】

「講座　近代日本女性のあゆみ　全6巻」　絲屋寿雄・吉見周子著　汐文社　1976年　880円
今日の女性が享受している男女平等の権利は先輩の多年にわたる自由獲得のたたかいの成果であるという視点から，明治維新から国際婦人年（1975）までを女性の自立と民主主義的権利獲得の歴史を中心に概説。
1　明治維新と女性の夜明け　〔1228〕
2　資本主義の発達と女性　〔1229〕
3　大正デモクラシーと女性　〔1230〕
4　日本ファシズムと女性　〔1231〕
5　新しい出発と戦後の女性　〔1232〕
6　現代女性の地位と展望　〔1233〕

「高知県婦人解放運動史」　外崎光広　ドメス出版
1975年　2500円
婦人解放運動の先駆地，高知県に視点を据えた，1世紀に及ぶ婦人解放運動史。〔0917〕

「国際婦人デーの歴史」　川口知子　校倉書房　1980年
2500円
第6号　“女性論”　p.5に既出。〔1115〕

「小作争議のなかの女たち—北海道・蜂須賀農場の記録」
高橋三枝子　ドメス出版　1978年　1300円
明治20年代に有産華族たちは，北海道の新開地への投資に着目，原野一億五万坪の土地の払い下げを受ける。小作人を本土から募集して入植させる。1920年に小作争議が起きる。その争議を聞き書きしたものである。〔1225〕

「古代女王ものがたり」　酒井傳六　文芸春秋　1982年
1500円
文明発祥の地に輝かしい名を残す6人の女王（クレオパトラ，ハトシェプスト，ビルキス他）のドラマチックな生きかたを描いた異色女性史。〔1148〕

「古代の女たち」　チャールス・セルトマン　藤井昇訳
冨山房　1973年　1300円
ギリシア・ローマ時代の女性はどのような風俗・習慣の社会でどのような生活を送っていたか。キリスト教会の桎梏を免れていたころの古代の女性像をさぐる。〔1100〕

「この百年の女たち—ジャーナリズム女性史」　岡満男
新潮社　1983年　780円
明治以後，ジャーナリズムにあらわれた女たちとその生活をたどり，男中心社会の実態を批判し，性差別の視点を廃し，新聞界に“女の目”をと説く。〔1155〕

【さ】

「サンダカン八番娼館—底辺女性史序章」　山崎朋子
筑摩書房　1972年　1200円
天草で赤貧の老後を送る“元からゆきさん”の生活に自ら飛びこみ，生の声を聞き書き。〔0952〕

【し】

「静岡おんな百年　上」　市原正恵　ドメス出版
1982年　1400円
静岡地方女性史。自由民権と女たち，吉岡弥生—女医の先達の少女時代。明治社会主義と女たち。〔1203〕

「静岡おんな百年　下」　市原正恵　ドメス出版
1982年　1400円
キリスト教に生きる—宮城まり子の母　戦前社会運動群像　戦後の女たち—藤原道子　静岡県近代女性史年表
〔1204〕

「自伝的女流文壇史」　古屋信子　中央公論社　1977年
280円
若くして文壇に出た著者がながい作家活動の間に遇った女流作家10人の肖像を描く女流文壇側面史。〔1226〕

「信濃のおんな　上」　もろさわようこ　未来社
1969年　1200円
古代から現代にいたる底辺に生きてきた信濃のおんなたちの生涯を追求し，日本女性史研究にあらたな方向を示す地方女性史。古代—近世　〔1212〕

「信濃のおんな　下」　もろさわようこ　未来社
1969年　1200円
現代編—製糸工女・松井須磨子・大正デモクラシーと女たち，平林たい子，丸岡秀子他　〔1213〕

「社会事業に生きた女性たち—その生涯としごと」
五味百合子　ドメス出版　1973年　1500円
22名の社会事業に生きた女性たちの足跡を22名の執筆者が担当してまとめている。山田わか・矢島楫子・長谷川りつ子・ハンナ・リデル他　〔0913〕

「写婚妻」　工藤美代子　ドメス出版　1983年最新刊
1300円
70年前1枚の見合い写真を手にカナダに渡った写婚妻をたずね，13人にインタビュー。カナダ在住の著者の隠れたカナダの移住女性史。〔1241〕

「写真婚の妻たち—カナダ移住女性生活史」　真壁智子
未来社　1983年　1200円
第7号　目録　“結婚・家族”　p.6参照。〔1688〕

「従軍慰安婦　正」　千田夏光　三一書房　1978年
650円
従軍慰安婦がどういう経緯でつくりだされたか。彼女たちがどうしてそういう境遇に陥らざるをえなかったかを克明に追跡し，日本軍国主義を告発する。〔0923〕

「従軍慰安婦　続」　〔0924〕

「銃後史ノート　No.1～No.3合本」
女たちの現在を問う会　JCA出版　1977年　1500円
生き残った銃後の女たちと戦後を知らないメンバーたちの対話の場としてこの機関誌を発行。母たちは戦争の被害者であったが，同時に侵略戦争を支える銃後の女たちであった。“何故そうでしかありえなかったか”を明らかにしようとする。〔0980〕

「銃後史ノート　復刊1号」　1982年　1200円
特集—非常時の女たち　〔0981〕

「銃後史ノート　復刊2号(No.5)」　1981年　1200円
特集—日中開戦・総動員体制下の女たち　〔0982〕

「銃後史ノート　復刊3号」　1982年　1200円
特集—“紀元二千六百年(昭和15年)”の女たち　大政翼賛会と婦人団体　戦時下のキリスト教者たち他　〔1220〕

「銃後史ノート　復刊4号」　1982年　1200円
特集―女たちの十二月八日　〔1221〕

「将軍・提督　妻たちの太平洋戦争」　佐藤和正
光人社　1983年　980円
かつての将軍・提督など軍人の妻たちを訪ね，戦中・戦後の混乱期を生きぬいてきた姿を描く。この本に描かれる在し日の夫像は戦記に見られる彼等の姿とはちがってユニークだというのだが？　〔1235〕

「証言記録　従軍慰安婦・看護婦」　広田和子
新人物往来社　1975年　1200円
遺言を残して自ら命を絶った元従軍慰安婦芸者菊丸の青春。満州からソ連捕虜収容所へ送られその後中国解放戦争に従軍させられた元従軍看護婦等の証言。軍人恩給の対象にもならない従軍看護婦の戦後他。　〔1200〕

「昭和史のおんな」　澤地久枝　文芸春秋　1980年
1000円
東郷青児の妻たち。堕胎罪に問われた女優志賀暁子。杉本良吉の妻杉山智恵子など，昭和史を生にぬいた女たちの足跡をたどる。　〔0928〕

「続　昭和史のおんな」　澤地久枝　文芸春秋　1983年
1100円
昭和に生きた女性たちのドラマ。初代女性アナ翠川秋子の情死，伝説のなかのプリマドンナ一関屋敏子他。
〔0929〕

「女工哀史」　細井和喜蔵　岩波書店　1954年　550円
大正14年に初版本がでる。今日に至るまで版を重ねた女子労働者の記録の古典。本書は官庁調書とはちがい，職工として働いた著者自身の体験から女工の立場に立ち，日本資本主義を底辺でささえた女子労働者の生活を克明に伝える貴重な記録。　〔0960〕

「女性解放思想史」　水田珠枝　筑摩書房　1979年
2900円
18C後半から19C前半にかけての，ヨーロッパの女性解放思想の形成過程をあとづける。「女性解放思想の歩み」岩波新書〔0953〕は本書を土台として著わされている。
〔0907〕

「女性解放思想の歩み」　水田珠枝　岩波書店　1973年
380円
第6号　“女性論”　p.6参照。　〔0953〕

「女性思想史―愛と革命を生きた女たち」　神近市子
亜紀書房　1974年　950円
各時代の女たちがいかなる思想を生きてきたかを回顧・省察し，女性は劣性であるという誤った考えを克服しようとする。ギリシアの婦人，ギリシアの娼婦，ローマ女性から近代の女性まで。　〔0956〕

「女性解放の先駆者たち―中島俊子と福田英子」
絲屋寿雄　清水書院　1975年　630円
人と歴史シリーズ　日本40　岸田俊子（後に中島）と自由民権運動。福田英子と自由党・社会主義など，日本女性解放運動の先駆者の生涯をとり上げる。　〔0969〕

「女性の歴史―成城大学公開講座1」　石川弘義
丸ノ内出版　1978年　1800円
古代・中世の女性，先史時代の日本女性，近世・近代の女性など公開講座を編集したもの。　〔1149〕

「女性の歴史　上」　高群逸枝　講談社　1979年
520円
“女性史を俗書から学問の書としてまとめた最初の書”という著者の自負は今日においてもなおその客観的評価を得ている。20余年をかけた労大作。原始時代から江戸時代まで。　〔0800〕

「女性の歴史　下」　高群逸枝　講談社　560円
“母系制の研究”“招婿婚の研究”に根拠と出発点を持つ高群の学説をつらぬいた日本女性全史。明治時代から第二次大戦後まで。　〔0801〕

「新撰組の女たち」　童門冬二　朝日新聞社　1982年
980円
若き新撰組隊士の多くは，名も無き女性たちと共に短かい青春を駆けぬけた。この時代にいきた女たちを描く。
〔1188〕

「新日本女性史」　桜井正信編　有峰書店　1979年
2300円
古代・中世・近世に生きた女性たちの生活を中心に日本の民族文化・風土を考える。　〔0925〕

「新版　あゝ野麦峠」　山本茂美　朝日新聞社　1972年
740円
飛騨の娘たちの群れが野麦峠を越えた一元工女の証言をもとに近代日本の素顔を浮彫にした記録文学の傑作。
〔0964〕

「新版　世界女性史」　玉城肇　西田書店　1976年
1500円
原始母系社会の崩壊ののち，女性はなぜ歴史の主体たりえなかったのか？本書は，社会経済史の視点で古代から現代にいたるまでの女性の疎外のメカニズムを解明する。
〔1147〕

「新版　日本女性史」　井上清　三一書房　1967年
650円
“女性もまた人間である。このかんたんめいりょうな事実を日本人はこれまでよく知らなかった”というはしがきではじまる戦後すぐ（1948年）に著わされた日本女性史の古典的名著の新版本。　〔0865〕

「人物近代女性史　女の一生　全八巻」
瀬戸内晴美監修　講談社　1980年　各巻　1300円
自立の旗を高くかかげた近代日本の女性50人の愛と勇気の物語を現代の第一線の女流作家が共感をこめて描く。人物女性史。

1　火と燃えた女流文学　〔0868〕
2　明治に開花した才媛たち　〔0869〕
3　黎明の国際結婚　〔0870〕
4　恋と芸術への情念　〔0871〕
5　自立した女の栄光　〔0872〕
6　反逆の女のロマン　〔0873〕
7　明治女性の知的情熱　〔0874〕
8　人類愛に捧げた生涯　〔0875〕

「人物日本の女性史　全12巻」　円地文子監修　集英社
1977年　各巻　890円
女流作家，女流評論家，女流歴史家など女性たちだけで描き出された85人の人物女性史。

1　華麗なる宮廷才女　〔0827〕
2　栄光の女帝と后　〔0828〕
3　源平争乱期の女性　〔0829〕
4　戦国乱世に生きる　〔0830〕
5　政権を動かした女たち　〔0831〕
6　日記につづる哀歓　〔0832〕
7　信仰と愛と死と　〔0833〕

8 徳川家の夫人たち 〔0834〕
9 芸の道ひとすじ 〔0835〕
10 江戸期女性の生きかた 〔0836〕
11 自由と権利を求めて 〔0837〕
12 教育・文学への黎明 〔0838〕

「人物日本の女性史 100話」 山本藤枝・小石房子
立風書房 1981年 1200円
100人もの史上の女性の足跡を一巻に集録。卑弥呼から与謝野晶子まで，その人物像を中心に描かれている。
〔1242〕

「人物婦人運動史—明治・大正・昭和のあゆみ」
金森トシエ 労働教育センター 1980年 1200円
明治期に出そろった婦人の要求—婦選なくして普選なし。おしゃもじ運動も公害闘争も。主婦連と並んだ大衆婦人運動—母親大会。巻末に1869〜1979年までの婦人運動史年表がついている。
〔0939〕

【せ】

「世界女性史」 ゴンザック・トリュック 森乾他訳
久保書店 1971年 1500円
原始世界から現代まで数千年の世界の女性の歴史を主として女性解放運動の歴史を軸として書かれた通史。
〔1143〕

「世界の女性史 全19巻」 笠原一男・
木村尚三郎企画構成 評論社 1978年
日本の近代化の歴史はヨーロッパ・アメリカを手本として展開された。それらの諸国の女性像ははたして実像であったか。日本の女性の在り方を考える上で，それら諸一外国の女性史を辿ることが必要と思われる。その意図で企画構成されたもの。

1	神話の女	1500円	〔1122〕
2	未開社会の女	1200円	〔1123〕
3	古代	1200円	〔1124〕
4	フランスⅠ	1500円	〔1125〕
5	フランスⅡ	1600円	〔1126〕
6	イギリスⅠ	1400円	〔1127〕
7	イギリスⅡ	1400円	〔1128〕
8	イタリア	1300円	〔1129〕
9	アメリカⅠ	1700円	〔1130〕
10	アメリカⅡ	1400円	〔1131〕
11	ロシアⅠ	1400円	〔1132〕
12	ロシアⅡ 東欧	1500円	〔1133〕
13	中東アフリカⅠ	1800円	〔1134〕
14	中東アフリカⅡ	1700円	〔1135〕
15	インド	1300円	〔1136〕
16	中国Ⅰ	1500円	〔1137〕
17	中国Ⅱ	1300円	〔1138〕
18	日本Ⅰ	1500円	〔1139〕
19	日本Ⅱ	1400円	〔1140〕

「戦後信州女性史」 長野県連合婦人会・辻村輝雄
家政教育社 1978年 2800円
長野県下の婦人会が戦後20年間にわたる婦人の生活・活動の実態を昭和41年に非売品として発行。それを復刊出版したもの。空しい戦争の果てに，苛酷な戦後生活，婦人参政権と政治，PTA と母親他
〔0975〕

「戦争と女性—昭和史の発掘」 西口友紀恵編
白石書店 1981年 980円
日刊赤旗のインタビュー記事“戦争と女性”と読者からの投稿の一部をまとめたもの。乙羽信子，山家和子，帯刀貞代，石垣綾子，淡谷のり子他
〔1216〕

「戦後日本女性史」 伊藤康子 大月書店 1974年
1400円
政治革新をめざし，社会的経済的地位の向上のためにたたかう婦人の要求にこたえる戦後日本の女性史の通史。
〔0940〕

【そ】

「続 あゝ野麦峠」 山本茂美 角川書店 1980年
980円
名作「あゝ野麦峠」が世に出て十数年，以来著者の手元には膨大な新資料が集められ，新たに若き工女や村人たちの姿を描く。男工哀史，山一争議など。 〔0965〕

「続 あゝ野麦峠」 山本茂美 角川書店 1980年
420円 〔0963〕

「続 北海道の女たち—ウタリ編」 高橋三枝子
北海道女性史研究会刊 1982年 1850円
“アイヌの女性をぬきにして北海道の女性史は語れない”と著者はいう。アイヌには差別や圧迫が二重三重にものしかかる。北海道女性史家がつづる。アイヌの女性史。
〔5049〕

【た】

「大正女性史 上巻」 村上信彦 理論社 1982年
2200円
名著“明治女性史”全四巻の土台の上に大正時代の市民生活を探る。
上巻＝市民生活 中巻＝職業婦人 下巻＝社会運動 の大構想の下に著者の全生命をそそぐ。第5号 書評 p.8 参照。現在，上巻のみ発売中。 〔1158〕

「大正の日本人」 中野久夫他 ぺりかん社 1981年
1200円
リベラリズム，ハイカラとモダン，デモクラシー，婦人運動など大正期の日本人像を描く。 〔0959〕

「対談にっぽん女性史」 杉本苑子 文芸春秋 1979年
950円
対談で歴史に登場する女たちを語る。古代の女帝たち 王朝の女流作家たち 源氏の女・平家の女 悲恋のヒロイン 狂言に演じられる女心 出雲の阿国他 〔0932〕

「大興安嶺死の800キロ」 吉田知子 新潮社 1979年
980円
昭和20年8月ソ連軍満州に突如侵入。女・子供を主体にした人馬の集団が35日間生死を賭けて北満の曠野を逃避した。
〔1187〕

「たたかいに生きて—戦前婦人労働運動への証言」
渡辺悦次・鈴木裕子編 ドメス出版 1980年1300円
女性として初めてメーデーに参加した赤瀾会の人びと—近藤（堺）真柄，太陽のない街の闘争，製糸工女から中間派無産婦人運動の闘士へなど戦前の労働運動にかかわった人々の証言。
〔0943〕

「戦いの中の青春—1945年日本女子大卒業生の手記」
日本女子大43回生文集委員会 勁草書房 1976年
1300円
女子大入学寸前に日米開戦，卒業の年に第二次大戦終結という戦いの中に青春を過ごした女子学生の戦争体験をつづる手記。勤労動員，空襲，恋人の出陣など。〔1195〕

【ち】

「中国女性史」　山川麗　笠間書院　1977年　1000円
古代の女性，秦漢の女性，魏晋南北朝の女性など古代史にはじまり，近代革命と共に盛興した婦人解放運動に至るまでの中国女性史。〔1101〕

「中国女性史—太平天国から現代まで」　小野和子　平凡社　1978年　1200円
中国の婦人解放はヨーロッパの市民的な婦人解放とはおよそ対照的に農民革命にその原点がある。太平天国以後百年にわたる女性解放運動の通史。〔1102〕

「中国四千年の女たち」　飯塚明　時事通信社　1983年　1500円
古代から江青まで中国歴史上の女性100人をとり上げ，楽しく読ませる。〔1246〕

「中世の女たち」　アイリーン・パウァ　中森義宗・安部素子訳　思索社　1977年　1800円
貴婦人，働く女たち，女子修道僧など様々な階層の女性の実像を浮き彫りにし，中世社会の女性像と比較。〔1104〕

「朝鮮人女工のうた—1930年岸和田紡績争議」　金賛汀　岩波書店　1982年　430円
身を売られるようにして日本に来た朝鮮人女工の不満は世界恐慌の翌年1930年岸和田紡績大争議に爆発。当時の女工たちをさがし歩き埋没した資料を発掘して知られざる現代史を再現している。〔1160〕

【つ】

「妻たちの二・二六事件」　沢地久枝　中央公論社　1975年　320円
至誠に殉じた熱血の青年将校ら，彼らへの愛を秘めて激動の昭和を生きた若き妻たち。各地に忍耐の時を刻んだ妻たちの35年をたどる。〔1184〕

【と】

「ドキュメント女の百年　全6巻」　もろさわようこ編　平凡社　1978年　各巻　1000円

1　女の一生　女たちはいかにその一生をすごしたか〔0821〕
2　女と教育　女はどのように作られたか〔0822〕
3　女のはたらき　女にとって労働とは〔0823〕
4　女のからだ　昔汚れたものとされた女のからだ〔0824〕
5　女と権力　女は戦争の被害者であり尖兵であった〔0825〕
6　女たちの月日　閉された状況を切り拓く女たち〔0826〕

【に】

「日本婚姻史」　高群逸枝　至文堂　1963年　1200円
第7号　目録“結婚”p.5参照。〔1676〕

「日本史小百科9　遊女」　西山松之助編　近藤出版社　1979年　1600円
江戸吉原遊廓を中心に，遊女の歴史と各地の遊里・遊客を詳しく解説。ジャンル別の日本史辞典。〔0971〕

「日本史小百科2　女性」　赤木志津子　近藤出版社　1977年　1600円
あるがままの女性の生活の歴史をたどり，古代より近代まで約100人にのぼる女性群像の小伝をのせている。巻末には女性史年表もある。〔0854〕

「日本史にみる女の愛と生き方」　永井路子　新潮社　1983年　280円
歴史に名を残した女性たち33人の実像を，最新の史料と新鮮な視点でとらうた，ユニークな女性史探訪。〔1227〕

「日本史の中の女性」　松本清張・永井路子他　毎日新聞社　1979年　1200円
女帝から底辺の女まで，婦人民主クラブ開催の歴史講座を編集。東アジアの中の日本古代—松本清張　元始女性は太陽であったか—金達寿　政治と女性—永井路子他〔0927〕

「日本女性哀史—遊女・女中・からゆき・慰安婦の系譜」　金一勉　現代史出版会　1980年　1600円
太平洋戦争期の日本軍隊の“慰安婦”の発想がいつどのようにして始まったかを追求する。あわせて遊女・女郎を歴史の流れの中からとらえる。〔0961〕

「日本女性史　全7巻」　笠原一男編　評論社　1975年　各巻　1200円
歴史の主役的女性を追うだけでなく，名もない多数の歴史の裏方さん的女性の生き方に焦点をあて，古代から現代にいたるまで，それぞれの時代の特質と関連させながら描く日本女性史。

1　めくるめく王朝の女〔0876〕
2　激動の世と女の哀歓〔0877〕
3　彼岸に生きる中世の女〔0878〕
4　義理と人情に泣く女〔0879〕
5　抵抗に目ざめる女〔0880〕
6　近代女性の栄光と悲劇〔0881〕
7　近代の女性群像〔0882〕

「日本女性史　全5巻」　女性史総合研究会　東京大学出版会　1982年～1983年　各巻　1800円
従来の婚姻史・運動史・人物中心の女性史的考察だけにかたよることなしに，歴史のなかの女性の実像に迫るために，各時代における女性の地位，性別役割分担などを中心に総合的な課題設定を計っている。各界から注目の本格的な女性史研究の成果。なお本号「あなたの情報・私の情報」もご参照下さい。

1　原始・古代
原始からはじめ，律令国家の崩壊に至るまで。家族，親族問題と性別分業に重点を置き，“高群女性史”を継承しながら，その克服をも計る。原始土器と女性，宮廷巫女の実態，古代の女性の労働，女帝と皇位継承法他。〔1150〕

2　中世
平安末から戦国動乱期の公家・武家はもとより，村落共同体においても男子中心の社会であり，封建制の成立期であるが，女性の姿はまだいきいきしていた。中世女性の宗教性と生活，中世における性別役割分担と女性観他。〔1151〕

3　近世
幕藩体制時代。完成された封建的差別，抑圧体制のもとで，女性はどういきていたか。女性の姿と制度を描く。比較史研究＜中国の女訓と日本の女訓＞他〔1152〕

4　近代
近代は女性解放の契機とはなったが，一方で新たな差別と抑圧をつくり出した。近代が生み出した女性への差別の実態を解放への視点から分析する。文明開化と女性の地位，明治民法と女性の権利，明治社会主義運動と女性。他。〔1153〕

5　現代
大正デモクラシーに育くまれた婦人運動から戦後の婦人解放運動まで。現代に生きる日本女性の方向を示す。日本女性史の最終巻。〔1154〕

「日本女性史考」　西岡虎之助　新評論　1977年　2200円
古代巫女の土地経済史的考察，王朝時代における新しい女性，平安時代における乳母の研究，戦国時代の政略結婚と女性の活躍他。〔1172〕

「にっぽん女性史発掘」　樋口清之　婦人画報社　1979年　880円
“序・私は女性史をこうみる”に述べられている“女性史の出発点に青踏社宣言はふさわしくない”や“ウーマンリブの失敗から”に語られる樋口史観をどうとらえるか？一読をおすすめする。〔1234〕

「日本女性の生活史」　樋口清之　講談社　1977年　420円
歴史の中で女性はただ被害者であり，被抑圧者にすぎなかったのだろうか。“被害者としての女性史”というイデオロギーに疑問を感じるという著者の女性史。女性解放的視点と異った樋口女性史観。一読をおすすめする。〔1186〕

「日本女性の歴史　全15巻」　井上靖・円地文子監修　暁教育図書　各巻　1700円　1982年～1983年
写真・図録を中心に編集された日本女性史。“日本発見・人物シリーズ”として企画されたもの。人物を中心にそれぞれの時代に生きた女性像を描く。ウィメンズ・ブックス創刊号に出ている1979年版は絶版になり，新装再版されたもの。

1　古代王朝の女性　〔0802〕
2　輝ける女帝と后　〔0802〕
3　宮廷をいろどる才女　〔0804〕
4　源平悲劇の女性　〔0805〕
5　鎌倉時代の女傑　〔0806〕
6　室町争乱期の女性　〔0807〕
7　戦国時代の女性　〔0808〕
8　将軍と大名の婦人　〔0809〕
9　江戸と上方の女　〔0810〕
10　幕末維新の女性　〔0811〕
11　文明開化と女性　〔0812〕
12　大正の女性群像　〔0813〕
13　戦中戦後の女性　〔0814〕
14　女流文化の世界　〔0815〕
15　日本女性史の謎　〔0816〕

「日本女流文学史　古代中世篇」　久松潜一編　同文書院　1969年　3300円
女流作家が華やかに活躍する古代から中世までの文学史。〔1191〕

「日本の女一戦前編」　橘樹まゆみ　晧星社　1980年　1500円
第6号　目録　“女性論”　p.9参照。〔0601〕

「日本の女一戦後編」　河野信子　晧星社　1980年　1500円
第6号　目録　“女性論”　p.9参照。〔0602〕

「日本の女一現代編」　綾部伴子　晧星社　1981年　1500円
第6号　目録　“女性論”　p.9参照。〔0600〕

「日本の女性名　上一歴史的展開」　角田文衛　教育社　1980年　800円
古代から鎌倉時代までの女性名の歴史的研究。〔1142〕

「日本の女帝」　上田正昭　講談社　1973年　420円
日本の古代史になぜ女王・女帝が必要だったか。従来の巫女王説，中継天子論をこえて，本書は女帝群像を当時の社会や政治，経済のあり方の中でとらえ直す。〔1141〕

「日本婦人運動小史」　山川菊枝　大和書房　1981年　1300円
明治初期より第二次大戦までの婦人解放運動の歴史を時代背景や人物群像とともに丹念に描き出す。〔0918〕

「女人芸術の人びと」　尾形明子　ドメス出版　1981年　1700円
“女人芸術”一昭和3年から昭和7年まで長谷川時雨を中心に執筆編集とも女性によってなされた48冊の文芸雑誌。女人芸術に参加した作家・詩人など16人の生と仕事を聞き書を交えながら探る。円地文子，八木秋子，佐多稲子他。〔0912〕

【の】

「野の女一明治女性生活史」　永畑道子　新評論　1982年　1300円
明治の庶民の女の生き方を当時の新聞資料を素材として描く。各紙誌で紹介され話題の書。版元新評論ではマスコミ書評を一冊のブックレットにまとめ“野の女書評集”を出している。申込めば無料で送ってくれる。〔1146〕

【は】

「機織唄の女たち一聞き書き秩父銘仙史」　井上光三郎　東京書籍　1980年　980円
日本中が愛用した秩父銘仙。十数年にわたってかつての織娘たちを訪ね機織唄にこめられた思いや年季奉公のおきてなどの貴重な記録。〔0921〕

「母の時代一愛知の女性史」　名古屋女性史研究会　風媒社　1969年　1500円
“男の子ならば抱きあげよ。女の子ならば踏みつぶせ”と尾張の手まり唄にうたわれた愛知の女性たちの姿を復元し，母や祖母が苦難の中で築き上げた女の百年を名古屋の主婦たちが出版した地方女性史。〔1190〕

「母と娘の刻印」　千田夏光　講談社　1982年　1000円
敗戦直後の旧満州で一日本女性が進攻してきたソ連兵に凌辱され，妊娠した。帰国した彼女は苦悩の末，堕胎の勧めを拒否し，女児を出産。母とその娘の戦後史を描く。最近ＴＶドラマ化された。〔1162〕

【ひ】

「平塚らいてう著作集　全7巻」　大岡昇平・丸岡秀子・櫛田ふき他編集委員　大月書店　1983年6月（2～7巻は以後隔月発売）　各巻　3000円（全巻予約受付中）

1　青踏　〔1199〕
2　母性の主張について
3　社会改造に対する婦人の使命
4　むしろ性を礼拝せよ
5　婦人戦線に参加して
6　娘に母の遺産を語る
7　私は永遠に失望しない

「ヴィクトリア時代の女性たち」　バンクス夫妻　河村貞枝訳　創文社　1980年　1800円
中流階級が登場するヴィクトリア朝を背景に自立する新しい女たちの生活が具体的な資料・証言をもとに明らかにされているイギリス女性史。フェミニズムと家族計画を中心に描かれている。〔1106〕

「フェミニズムの歴史—知られざる女性解放思想家たち」　ブノワット・グルー　山口晶子訳　白水社　1982年　1400円
第6号　目録 “女性論” p. 10 に既出。第6号　書評欄も参照下さい。　〔0579〕

【ふ】

「服装の生活史」　池田孝江　大月書店　1975年　300円
服装は人間の生活の歴史であるという視点から，人間的な生活，より豊かな服装を求めてつづる生活史。〔1198〕

「服装の歴史」　村上信彦　講談社　1979年　320円
性によって服装がなぜ違うのか？　社会における男と女の関係の歴史と有機的に関連づけることで初めて服装の問題を合理的に捉え服装研究に画期的な視点を打ち立てた全3巻の労作。
1　キモノが生まれるまで　〔1205〕
2　キモノの時代　〔1206〕
3　ズボンとスカート　〔1207〕

「服装の歴史　全5巻」　村上信彦　理論社　1978年　各巻　1300円
1　キモノが生まれるまで　〔0900〕
2　キモノの時代　〔0901〕
3　ズボンとスカート　〔0902〕
4　戦後服装史　〔0903〕
5　時評と批判　〔0904〕

「武家の女性」　山川菊栄　岩波書店　1983年　300円
動乱に明けくれる幕末の水戸藩を舞台に下級武士の家庭と女性の日常の暮しを生きいきと描いた生活の記録。山川菊栄昭和18年の著作。　〔1161〕

「婦人雑誌ジャーナリズム—女性解放の歴史とともに」　岡満男　現代ジャーナリズム出版会　1981年1600円
男尊女卑踏襲の明治社会　『女学雑誌』創刊の前後　良妻賢母主義のジャーナリズム　『青踏』の触発したもの他。　〔0944〕

「婦人思想形成史ノート　上」　丸岡秀子　ドメス出版　1975年　1600円
第6号　目録“女性論” p. 10 参照。　〔0444〕

「婦人思想形成史ノート　下」　丸岡秀子　ドメス出版　1982年　1800円
第6号　目録“女性論” p. 10 参照。　〔0686〕

「婦人のあゆみ百年」　日本婦人団体連合会編　大月書店　1978年　1300円
婦人運動100年の足跡をたどる。特に戦後の婦人運動を中心にまとめられている。婦団連の運動史も含まれる。　〔0906〕

「復刻　製糸女工虐待史」　佐倉啄二　信濃毎日新聞社　1981年　1000円
1927年に出版された書の50年ぶりの復刻版。製糸の町岡谷の下級職工による生々しい内部告発の書。製糸工場の実態を知る上で貴重な文献。「女工哀史」〔0960〕の姉妹篇的文献価値あり。　〔0978〕

「フランス女性の歴史　全4巻」　アラン・ドゥユー　大修館　1980年
男に支配されながらもやがて自我に目覚め自らの花を咲かせたフランス各階層の女性たちを興味のつきないエピソードで描いた歴史読物。17C～20Cに至るフランスの女性たちの姿をまとめたもの。
1　ルイ十四世治下の女たち　川田靖子訳　1600円　〔1107〕
2　君臨する女たち　柳谷巌訳　1600円
18Cに入ると，フランス女性はサロンを中心に精神界に君臨する。国王の寵姫として国政にも権勢を振う　〔1108〕
3　革命下の女たち　渡辺高明訳　1600円
フランス革命前後の時代に生きる女性の社会参加と権利拡張闘争を克明に描く。　〔1109〕
4　目覚める女たち　山方達雄訳　1800円
ナポレオン法典の女性の位置づけ，女子教育の実情，女工の悲惨な実態を見つめ，近代的な女性解放運動の誕生。　〔1236〕

【へ】

「紅と紺と　日本女性史　上」　林屋辰三郎編　朝日新聞社　1976年　720円
序章—糸につながる女性史　巫女の系譜　宮廷の女性　王朝の才女他。　〔0957〕

「紅と紺と　日本女性史　下」　林屋辰三郎編　朝日新聞社　1976年　720円
崩れゆく女の優位　お伽草子の女主人公　能・狂言にみる女性　西鶴の描いた女他。　〔0958〕

【ほ】

「炎の女—大正女性生活史」　永畑道子　新評論　1982年　1500円
自我にめざめた大正期の女たちが自立・理想・愛を求めて生きた姿を浮きぼりにする。なお「影の女—昭和女性生活史」が83年度中に刊行予定。話題の女性生活史三部作が完結することになる。　〔1145〕

「母系制の研究　上」　高群逸枝　講談社　1979年　440円
武蔵野の一隅に籠って7年余。タブーの中での女性の手になる最初の科学的女性史。これは高群逸枝の女性史研究の第一作。日本の母系制の存在を実証し，父系に移ってゆく過程を明らかにする。　〔0866〕

「母系制の研究　下」　420円　〔0867〕

【ま】

「魔女狩り」　森島恒雄　岩波書店　1970年　430円
西欧キリスト教国を魔女狩りが荒れ狂ったのは15～16Cである。狂信と政治が結びついたときに現出する世にも恐ろしい光景をここにみる。　〔1156〕

「万葉の女人像」　上代文学会編　笠間書院　1974年　1000円
虫麻呂と伝説の女，大伴旅人と仙女，家持における女たち，無名の女たち，笠女郎他。　〔1173〕

「万葉の女人像」　山路麻芸　春秋社　1977年　2000円
代表的万葉女流歌人や名もなき市井の女人たちの悲恋と運命を感動をこめて現代に甦らせる。　〔1178〕

【め】

「明治女性史　全四巻」　村上信彦　理論社　1973年　各巻　2800円
運動の頂点だけが照らされて底辺の人びとの歴史的実感が見過ごされたという視点から著者はたんねんに足で調べ聞き書きした大労作。解放史から生活史へと著者の視点は，女の歴史を学ぶための新しい方法を開拓した。

上巻―文明開化 〔0896〕
中巻前篇―女権と家 〔0897〕
中巻後篇―女の職業 〔0898〕
下巻―愛と解放の胎動 〔0899〕

「明治の女性たち―開国日本の女性群像」 島本久恵
みすず書房 1966年 2500円
蓮月尼，森有礼夫人のこと，女医事始，婦人矯風会の人々，女優の発足，京舞井上流三世他。 〔0966〕

「覚めよ女たち―赤瀾会の人びと」 江刺昭子
大月書店 1980年 1300円
赤瀾会―1921年に結成された日本で最初の社会主義婦人団体。この赤瀾会のメンバーの生存者を尋ね歩き，迫害と弾圧に負けずに女性解放に生きた人々の生き方を描き出す。 〔0930〕

【も】

「もう一つのひめゆり部隊―戦後沖縄の売春婦」
富村順一 JCA出版 1982年 1500円
基地沖縄の女性たちの生の声を取材。米兵相手の売春に代り，日本復帰後同じ日本人による観光売春がはびこっている。日本人はこれ以上沖縄の女性を抑圧してはいけないと訴えている。 〔1223〕

「物語 女流文壇史 上―明治・大正篇」 巌谷大四
中央公論社 1977年 980円
初めての日本女流文壇列伝。80余名に及ぶ女流作家・詩人の足跡を探り日本女流文学者協会の成立までをたどる。 〔1192〕

「物語 女流文壇史 下―昭和篇」 〔1193〕

「物語 日本女性史」 田中澄江 日本放送出版協会
1979年 950円
万葉から徳川まで，それぞれの時代を生き抜いた女性の歴史の中に歳月を超えて変らぬ女の生き方を探る。 〔0926〕

「桃山時代の女性 日本歴史叢書30」 桑田忠親
吉川弘文館 1972年 1800円
秀吉の統一政治に裏方の役割を果した女性たちの生涯とその活躍状況を描く。 〔1189〕

【ゆ】

「遊女の歴史」 滝川政次郎 至文堂 1965年 1200円
遊女史と売笑史 遊女史の時代区分 巫女起源説批判 遊女史と男色との関係他。 〔1224〕

【り】

「琉球慰安婦―天皇制下の闇の性」 富村順一
JCA出版 1977年 1500円
第二次大戦のアジア侵略最前線沖縄でわずか8才の著者は天皇の写真に最敬礼を拒否し放校。以来30余年現在に至るまで放浪。天皇制が琉球王府を産み琉球人民は苦しめられてきた。いつの時代でも女に対する男の天皇制は変らない。異色の天皇制批判論。 〔0970〕

【る】

「ルネサンスの女たち」 塩野七生 中央公論社
1969年 1500円
ルネサンス期のイタリアでは権謀術と偽善の中で大国小国が抗争をくりかえし，女も大胆に政治に入り込んでいく。四人の女を通して描かれるルネサンスの時代像。 〔1105〕

【れ】

「黎明期のフェミニズム―女性解放運動の苦闘の歴史」
L．アドレール 加藤節子・杉村和子訳 人文書院
1981年 2200円
第6号 “女性論” p.11に既出。 〔1119〕

「歴史と女性シリーズ―大正デモクラシーと女性」
井手文子・江刺昭子 合同出版 1977年 1500円
大正デモクラシーののこしたもの 無産階級運動と女性他 〔0893〕

「歴史と女性シリーズ―日本ファシズムと女性」
吉見周子編著 合同出版 1977年 1500円
革命とファシズムのあらしのなかの女たち 軍国主義下の婦人政策と女性の協力 最前線の女性 銃後の滅私奉公他 〔0894〕

「歴史と女性シリーズ―戦後史と女性の解放」
絲屋寿雄・江刺昭子 合同出版 1977年 1500円
民主主義をもとめて―占領下日本の女性 冷たい戦争と民主主義の後退 大衆的平和・婦人運動の高まり。 〔0895〕

「歴史のなかの愛」 田中澄江 文芸春秋 1981年
950円
万葉の女たち 戦国乱世の女たち 女人たちのゆかりの地を訪ねて綴る歴史エッセイ。 〔1215〕

「歴史をさわがせた女たち 日本篇」 永井路子
文芸春秋 1978年 300円
日本の女性はいつも弱かったわけではない。男も唖然とする猛女たちを確かな史実にもとづいて描き出すユーモアあふれる意外史日本篇。和泉式部 北条政子 淀君 一豊の妻 細川ガラシアなど30数人。 〔1180〕

「歴史をさわがせた女たち 外国篇」 永井路子
文芸春秋 1978年 280円
マリー・アントワネット，エカテリーナ二世，ジャンヌ・ダルク，則天武后，クレオパトラ他30数人。 〔1181〕

「歴史をさわがせた女たち 庶民篇」 永井路子
文芸春秋 1979年 260円
歴史から掘り起こした名もない女たちのみごとな生きっぷりをユーモアに描く。万葉時代の猛烈ママ，平安女性の別れのセリフ，金貸し巫女繁盛記など。 〔1182〕

「歴史をさわがせた夫婦たち」 永井路子 文芸春秋
1979年 220円
古代から中世にかけてのトップクラスの夫婦を集める。上流社会の政略結婚，思いのほかに人間味あるマイホーム型，一見優雅なお公家さんは火の車など。 〔1183〕

「歴史をつくる女たち 全8巻」 木村尚三郎・
辻邦生他編 集英社 1983年2月より隔月発売中
各巻 1200円
現代を代表する執筆陣が歴史上の人物の生き方を鋭く見つめて描きだす世界の女性史。ギリシア神話から現代の女性まで60人余りの女性群像。巻末の対談がおもしろい。
① 愛と憎しみの原型（伝説・古代） 〔1170〕
2 不滅の愛に生きて（中世） 〔1169〕
③ ルネサンスの光と影（ルネサンス） 〔1168〕
④ 華麗なる宮廷の誘惑（バロック・ロココ） 〔1167〕
⑤ 世紀末の愛と炎（19C～19C末） 〔1166〕
⑥ 妻の名のもとに（19C～20C） 〔1165〕
⑦ 革命と戦争と恋（大戦間） 〔1164〕
⑧ 私たちは挑戦する（現代） 〔1163〕
○印は既刊 2巻は10月発売予定

【ろ】

「鹿鳴館貴婦人考」 近藤冨枝 講談社 1980年 1100円

書下ろしノンフィクション作品。激動の明治期，華やかに現出した鹿鳴館。欧化を強いられた女たちの哀しみのドラマ。 〔0933〕

【雑誌・文献目録・資料】

雑誌 思想の科学 No. 51 「体制を支えた女性史」 思想の科学社 1975年9月 300円

軍国昭和に生きた明治一代女 明治宮廷政治のヒロイン一下田歌子 ユーモア不在の悲劇一乃木静子 しきたりという名の魔力一塩月弥栄子「冠婚葬祭入門」をめぐって他 〔0972〕

雑誌 思想の科学 No. 31 「伝記にみる女の生」 思想の科学社 1983年4月 640円 〔1211〕

雑誌 歴史評論 No. 371「特集・女性史の方法をさぐる」 校倉書房 1981年3月号 〔1210〕

雑誌 田中正造とその時代 第3号 「女性史と足尾鉱毒問題」 JCA 出版 1982年 850円 〔1157〕

「日本女性史研究文献目録」 女性史総合研究会編 東京大学出版会 1983年 5500円

「日本女性史」〔1150—1154〕の執筆者が女性史研究のために文献目録を作成。p. 231 に「ウイメンズ・ブックス」が文献を探す情報網となっていることが紹介されている。 〔7326〕

「日本婦人問題資料集成 全10巻」 ドメス出版 1980年

近代の黎明期から現代までの婦人問題資料の初の集大成。第5号 目録 “資料” p. 2 に既出。

1	人権	13000円	〔0883〕
2	政治	13000円	〔0884〕
3	労働	13000円	〔0885〕
4	教育	13000円	〔0886〕
5	家族制度	13000円	〔0887〕
6	保健・福祉	13000円	〔0888〕
7	生活	13000円	〔0889〕
8	思潮（上）	11000円	〔0890〕
9	思潮（下）	13000円	〔0891〕
10	近代日本婦人問題年表	8000円	〔0892〕

現在ウイメンズ ブックストアで扱っているミニコミ

（第7号発行後に入荷したもの）

5229 「女の自立と老いを考える——第一回女性による老人問題シンポジウム報告集」 (1983.5) 1200円

5230 「We 7月号——特集コミュニケーション」 We 書房 (1983.6) 500円

5231 「We 8・9月号——特集老いを考える」 We 書房 (1983.7) 500円

5232 「婦人通信 284号——特集私のきょうだい・派遣労働と雇用における男女平等」 (1983.7) 250円

5233 「婦人通信285号——特集あねさん女房・教科書検定他」 (1983.8) 250円

5234 「婦人通信286号——特集現代「見合い」考・高齢化社会にのぞむもの」 (1983.9) 250円

5235 「あい 5・6月号——特集みんなでボランティアを」 (1983.5) あさ企画 600円

5236 「あい 7月号——特集パートタイマー対策にのりだした地婦連」 (1983.6) あさ企画 600円

5237 「月刊ワイズ7月号——特集結婚式って何だろう」 (1983.7) 究出版 300円

5238 「月刊ワイズ8月号——特集 Good-By よいこ」 (1983.8) 究出版 300円

5239 「月刊ワイズ9月号——特集30代にこだわって“わたし”発見」 (1983.9) 究出版 300円

5240 「おんなの叛逆 No. 27」——特集女の人生阻む中絶規制」 250円

5241 「母子保健とは何か——優生保護法撤廃にむけて」 (1983.7) '82 優生保護法改悪阻止連絡会 250円

5242 「Wife No. 181——特集 PTA その苦しみと楽しみ」 (1983.5) 450円

5243 「Wife No. 182——特集家にいてできる仕事」 (1983.7) 450円

5244 「Wife No. 183——女の言いたい放題誌」 (1983.9) 450円

5245 「女性史研究と現代社会第2号——特集高群逸枝と現代社会」 東京女性史研究会 (1983.7) 500円

5246 「あごら28号——産む産まない産めない（優生保護法と優生思想を考える）」 BOC 出版 (1983.6) 1800円

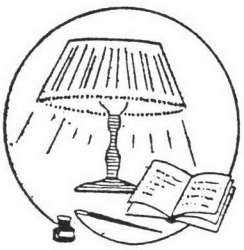
5247 「女から女たちへ43号」 (1983.8) 200円

——女性のための——

最新刊案内

—1983年6月～8月
発行及び
第7号未掲載分—

（女性史関係新刊は
今号目録に
入っています。）



0088 「搾取する性とされる性」 小原嘉明 海鳴社 1983年 500円

0089 「女の性 あなたの場合は」 辻田みか子 新潮社 1983年 980円

0090 「女性の不安」 H・ドゥローシス 斉藤学訳 誠信書房 1983年 2800円

0320 「日系女性立川サエの生活史」 中野草編著 御茶の水書房 1983年 2500円

0321 「詩人の妻——高林智恵子ノート」 郷原宏 未来社 1983年 1600円

0322 「二度生まれて——ある養女の心の旅」 ベティ・リフトン サイマル出版会 1983年 1300円

0691 「異文化の女性たち」 ポール・デザルマン 福井美津子 新評論 1983年 1500円

0692 「おんな 生きる・まなぶ」 宮淑子 三一書房 1983年 1300円

0693 「自由への旅——女性からみた人間の解放」 レティ・M・ラッセル 秋田聖子・奥田晓子訳 新教出版社 1983年 1300円

0694 「女性とリーダーシップ」 福毛敦子 有斐閣 1983年 1200円

0695 「自分という宇宙」 秋山さと子 青土社 1200円

1703 「主婦的話法」 伊藤雅子 未来社 1983年 1500円

1704 「家の歴史社会学」 二宮宏之他編 新評論 1983年 2400円

1705 「王国の妻たち——企業城下町にて」 木下律子 径書房 1983年 1200円

1706 「講座主婦1——主婦はつくられる」 武田京子・木村栄・田中喜美子 汐文社 1983年 1200円

1707 「講座主婦2——壁の中の主婦たち」 武田京子・木村栄・田中喜美子 汐文社 1983年 1200円

3084 「変わりゆく婦人労働」 高橋夕子編 有斐閣 1983年 1700円

3085 「女性のための情報専科」 暮らしと情報研究会編 芳文社 1983年 980円

3086 「主婦が得するおかね学」 野末陳平・海江田万里著 リビングマガジン 1983年 690円

3087 「失敗しないパートタイム」 菅原真理子 主婦と生活 1983年 880円

3088 「女性管理職の時代」 菅原真理子 筑摩書房 1983年 780円

3347 「国際法における男女平等」 池原秀雄監修 有斐閣 1983年 5000円

4683 「女が老後を迎えるとき」 島田とみ子 ミネルヴァ書房 1983年 1200円

7027 「若者と娘をめぐる民俗」 瀬川清子 未来社 1983年 5800円

2161 「子ども一揆がやってくる」 石井一朗 太陽企画出版 1983年 1000円

2163 「加害の母性」 荒川和敬 ゆまにて 1982年 980円

2164 「父親の自立と子育て」 木村栄 汐文社 1983年 1200円

2165 「新身分社会」 佐田智子 太郎次郎社 1983年 1400円

2166 「胎児からの子育て」 大島清 築地書館 1983年 980円

8002 「黒い卵——占領下検閲と反戦・原爆詩歌集」 栗原貞子 人文書院 1983年 980円

8003 「海女たちの四季」 田中のよ 新宿書房 1983年 1800円

8004 「長い午後——女子刑務所の日々」 早瀬圭一 毎日新聞社 1983年 980円

8005 「女ひとりの戦後」 創価学会婦人平和委員会編 第三文明社 1983年 980円

8006 「会津おんな戦記」 福本武久 筑摩書房 1983年 1300円

8007 「教科書に書かれなかった戦争」 アジアの女たちの会編 JCA出版 1983年 1200円

8008 「一号室のないホテル——ある姉妹の挫折と破滅の記録」 鍋島一緋 刀水書房 1983年 1200円

8009 「戦争と女たち——平和を産みだす母性の叫び」 埼玉母親連絡会編 あゆみ出版 1983年 980円

7326 「家庭雑誌総目録」 大木基子 緑蔭書房 1983年 1500円

7327 「女学雑誌総目録」 早野喜久江解説 緑蔭書房 1983年 3800円

《あなたの情報・私の情報》

「日本女性史第1巻—原始・古代」〔1150〕（女性史総合研究会編　東大出版会）をテキストにして

小林　治子

「教育を考える会」として母親が集って講師もなく自らの足で歩いてきた我々のグループは，子どもの問題を考える時，必ず母親の，そして父親の生き方，家族のあり方が深く関わることを痛切に感じ，本からの勉強と同時に自分の生きざまをみつめ本音をさらけ出すという作業を続けてきた。今年のテーマは女性史をとりあげ，テキストとして使っている。

好むと好まざるとに拘わらず，又夫や妻の意識はどうあろうとも，夫に経済的依存をすることにより成り立っている家族関係で，家事をどのように分担しようとも，家事労働には本来相応の経済的価値があるはずだと言ってみても妻の地位が上るわけでもなく，無償ではあるが重要であると考える社会活動に携ってみても女性解放につながるわけでもない。現在の主婦の苦しいまでの閉鎖状況の中で，この従属関係の原因は何か，いつの時代からかを知りたく読んでいる。この本は通史にはないおもしろさがあり，各々のテーマにひき込まれて読んだが，女性従属の原因は遂に読みとれない。肉体的劣位ならば女性解放は永久にだめなのかという短絡的な話もでた。こういう本の場合には，我々素人の読むことも考慮して，巻末に語句の解説と索引がほしいし，年表も附けて貰えるといいのだが。

（〒606 京都市左京区南禅寺下河原町1）

「海峡の女たち—関門港沖仲仕の社会史」〔1209〕を読んで（林えいだい著　葦書房）

武田　英子

関門港といえば，明治期に特別輸出港に指定され，石炭を筆頭に経済上軍需上の重要物資の輸出輸入のネックとなった港である。

ここに集った仲仕たちのなかで，女ながら石炭の天狗とり（本船に石炭を積みこむ重労働）や，モッコとり（船内倉庫からの物資の運びあげ）に，徹夜の作業をもやり抜いた“女ごんぞう”の全容を，彼女たちの証言と，関門の史的調査，社会状況の活写とによってえがき上げたのがこの労作である。

女工・女坑夫など女性労働者たちの記録は，関連の人々によってすでに世に出されたが，女ごんぞうについては，これが初めではなかろうか。すでに50年代に，林氏は彼女たちのルポを手がけておられたが，以来，年月をかけての取材であった。その時期すでに荷役はコンテナ化しつつあったから，女ごんぞう退場寸前の出会いが，氏をして取材へ向かわせ，その追跡が本書にみのったのである。女性沖仲仕の実像をこのようにしるしとどめてもらったことは，女性史の一部分に貴重な事実を積んだものであり，謝すべき仕事といえよう。

女ごんぞうたちは胸乳ゆたかな体軀のその乳房がなければ，まさに男と同じ働きであり，からだを張ってやり抜く気性だった。しかし，その生理も排泄も母としての授乳や妊娠も，まがうかたなき女。女性だからという保護も保障もない現場で“女”をかかえ自負を抱いて生きた。その感銘深い人生がありありと織り込まれ，底辺女性労働の現実を彫り上げた。

（〒182 調布市染地3-1　多摩川住宅ホ-7　2-7）

リポート

第二回女性による老人問題シンポジウム

1983年9月10日（土）　神戸市勤労会館にて

昨年結成された「高齢化社会をよくする女性の会」（代表樋口恵子氏）主催による第二回大会が神戸市で開催され約700人が集まりました。

第一部は「老後問題はなぜ女性の問題なのか」と題し，樋口恵子氏とボケ老人の在宅看護の医療ケアをすすめている京都堀川病院長早川一光氏の対談。早川氏の著書に「じいさんにばあさんの下の世話をさせるのは酷だ。」という箇所があるが，樋口氏は何故じいさんだったらいけないのかと迫られました。早川氏の答えは歯切れの悪いもので，老後問題でも性別役割分担の伝統が指摘され，女性に老人介護を押しつけてきた日本の福祉は見直しの時期に来ていることが述べられました。時代に合った合理的な老人介護の道を見つけなければならない。在宅介護か施設介護かの二者択一ではなく，デイ・ケア，ナイト・ケアのできる地域に開かれた多様な機能をもつ施設が必要であることなどが問題提起されました。

第二部の分科会では第一部で出された問題を深く掘り下げた討論がされ，第三部では「男の老後，おんなの老後」と題して，樋口氏，寿岳章子氏，金住典子氏，袖井孝子氏，藤本義一氏等の討論がありました。

急速な高齢化社会到来を前にして「すべての人に人間らしい老いを」の視点で，よりよい社会づくりを目指して活動をつづけるこの会の社会的役割は大きいと思われます。

〝ウイメンズブックス〟でも，「老後の問題は女性の問題」という視点から，老後問題の目録充実を計りたいと励まされて帰ってきました。

（レポーター　木下明美）

連載

ミニコミの女たち

第6回

沖縄県女性史研究会

深沢恵子

自己紹介

東京生まれ。結婚して沖縄へ。沖縄県女性史研究会の会員となって十年。沖縄の豊かな民俗性にふれてここに住みついたことを嬉しく思っています。今地域の大学に通い学生と一緒に民俗学の調査をしています。

何か確かな手応えを！と読書会を始めたのが十年前でした。「核も基地もない沖縄」という県民の願いとはうらはらに，強化される軍事基地に失望と不安が錯綜し，復帰をめぐる評価も混沌としている頃でした。

読書会をしながら，身辺にいる老母たちの手の甲に残された入墨（ハヂチ）についての聞き書きを始めていました。「沖縄女性史研究」の第一号は，その聞き書きをまとめワラ半紙にガリ版刷りという粗雑な作りのものでした。1974年に出され，今では，会にも一冊を残すのみになりました。

第二号（1978年）からタイプ印刷になり，＜沖縄戦を生きぬいて＞を特集しましたが，日本の地における唯一の地上戦のあった所として厚い経験をもつ沖縄は，その後毎号取りあげてもまだ語りつくせぬものがあります。

俗に秘祭といわれ，12年に一度行われる女だけの祭り＜イザイホー＞を1980年に第三号で取り上げ，第四号は、復帰10年の節目ということで会員の手記を中心としたものでした。

今年発行した第五号は，ユタ問題を戦争体験を中心に編集したものです。今日なお女性の日常生活と深く結びついたユタの介在する呪術的世界，また戦後38年経た今日，いまだ戦争の傷跡の絶えない人々を取り上げました。

3，4名の会員から始めたとはいえ，10年の歳月が経ていることに驚くと同時に，自分たちの力不足を痛感させられますが，創刊号から五号までのテーマを並べてみるとき，そこにはまぎれもなく「沖縄」があります。

独自の歴史と文化をもっていた琉球王国が島津の侵攻によりその支配下に組み込まれた1609年から400年この方，明治政府による琉球処分，戦後のアメリカ支配，再び日本復帰と，この小さな島は受難の歴史が続きました。

戦後のアメリカ統治下でいち早く復帰闘争が組織され，これを中心に政治的抑圧に対しては，それが強力であればあるほど，団結した力を発揮しましたが，「個」の確立を伴いませんでした。復帰後は，どの時代にも経験したことのない速度で，悪しき本土化が進行しているといわれる昨今です。いくたの受難の歴史にもかかわらず，沖縄の女性は，沖縄の青空のように明るく，たくましく，働き者だと評されます。それでもなお，女性の社会的地位の低さには変わりがありません。このことは私たちに，人間にとって労働とは何か，女性の社会的地位とは何か，という問いをつきつけてきます。

今日，本土が失ったものを持ちつづけていると言われる沖縄。そこに住む人間がもつ，大らかさ，やさしさが弱さに言いかえられることのないように自己確立をたしかにしながら，地上戦体験地域として，平和の原点が沖縄にあることをまた，苦難続きの歴史をもつ民が，それをバネに日本の歴史に寄与できることを目指して，私たち沖縄県女性史研究会では努力したいと考えています。

（那覇市首里久場川2-148）

◇品切・絶版・価格改訂のお知らせ◇

0941「母たちの昭和史」読売新聞社　絶版

1121「アナキズムと女性解放」JCA出版　絶版

0204「ひとり暮しの戦後史」塩沢美代子　岩波新書　絶版

0858～0863「日本の女性史全8巻」櫂書房絶版1，3，4，5，7，8巻に限り当書店在庫あり

0593「婦人問題ハンドブック」創元社　改訂版　680円→780円

訂正「あざやかな女たち」〔0670〕→〔0690〕　第7号最新刊案内　書籍番号訂正

会員の皆様へ

☆友の会主催の第一回講演会，丸岡秀子先生の「ひとすじの道」は230名のご出席を頂き，好評裡に終りました。講演会開催にあたりましては，沢山の会員諸姉から様々の形で暖いご支援を賜りました。心からお礼を申し上げます。また予想を上回る多勢の方にお集り頂きまして会場が狭く大変ご迷惑をおかけ致しました。不行届きの数々をお詫び致します。

☆会費納入済の方で会員証をまだお渡ししていない方には本号に同封致しました。会費未納の方は至急に同封振替用紙でご送金下さい。この会報は入会申込みを頂いた方だけにお送りしているものです。厳しい会計ご賢察の上何卒よろしくお願い致します。

☆友の会の会員様が京都にお越しの際，銀閣寺のすぐそばの「ペンション北白川」に一割引でお泊り頂けることになりました。会員優待一人一泊3,150円から（食事別）。観光に足場もよく清潔なペンションです。会合や合宿（50人位まで）などにもご活用下さい。会員の申込みであれば男女を問いません。便宜を計ってくれます。

お問合せは　〒606 京都市左京区北白川上別当町5
ペンション北白川　（電話）075-721-5290
又は 松香堂書店 まで

☆ウイメンズブックストアでは女性の建築家の手による住居史を10月1日刊行します。どうぞあなたの書架にお加えください。会員の皆様にはこの本に限り，送料無料にてお送りします。ご注文お待ちしています。

住まいと女
―女性からみた日本住居史―

柳 美代子 著　一、四〇〇円 〒250

◎家事を実際に担当してきた女性によって、初めて書かれた日本住生活考。
◎待望の女性建築家による本書は図版や写真を豊富に入れて日本住居の今昔を解り易く解説。一般の読者ばかりでなく、住居史のテキストにも最適。
ウイメンズブックストアが贈るこの一冊を是非あなたの書架にお備え下さい。

ウイメンズブックストア
京都 松香堂書店 刊
602 京都市上京区下立売通西洞院西入
TEL075―441―6905
振替京都8―7950

＝書 評＝

「考える女たち」〔1240〕

三枝 和子 編

南柯書房

「マスタリー・フォア・サービス」の建学精神に拠るキリスト教系大学同窓会女子部のメンバーが書いた手記を三枝和子さんが編集して世に送り出した。内容は，体験記・専業主婦の立場から，夢を求めて，女性論の四部に区分される。これを読むと10数年前に出た「女子大生亡国論」などはまことに次元の低い男性論理だと今さらの様に思えてくる。何故ならこの本の中に登場する女性達は皆社会の人間的な質の守り手として地の塩的な役割を果たしているからである。安易な生活に埋没することを拒み，自らの精神の本音の部分に光を当てて生きようと懸命に考えそれを行動化してゆく上での苦しみや悩みが随所で語られている。女はものを考える能力に欠けるなどと決めてかかるインテリ男性に是非読んで欲しい本だ。

内容に少しふれてみると，第三部の『私が私の名前で呼ばれる時』は PTA に於けるご都合主義を打破してゆく過程が小気味よく記録され子育て中の母親達への指針の役目を果たしてくれるものと言えよう。彼女がそこに至る迄のかつての若き日からの道程も包まず書かれていることにも心打たれた。「……自分達の事以外は何も考えず，行なわず，地域の人々と交わろうともせず……過ごした日々を大へん恥しく思う……」と実感あふれる言葉が続くのである。第四部では学者の立場から仲原晶子氏が「……思えば幾度か壁に突き当たり迷路にまよい目標を見失いそうになった事もあった。その都度第一義的なことは何か，私はどう生きようとしているか？　と自問自答して今日に至ったが……論理的思考を土台としながら社会科学的な広い視野で問題をとらえる必要がある……」と述べている。「家庭生活に於ける性役割や分担を伝統を脱した方法で改革しようとする努力が目覚めた男性達の協力によって今ようやくなされつつあるのではないか……。」と明かるい見通しを付け加えているのが印象に残る。

（今井　孝子）

‖原稿募集‖

上記の書評欄へ投稿をお待ちしています。

女性の目で見直した鋭い批評や，視点を変えたユニークなものをお寄せください。

400字詰原稿用紙に約1枚半，600字前後です。住所とお名前，電話番号も原稿用紙にお書き添えください。掲載させて頂いた方には薄々謝，進呈致します。

「あなたの情報・私の情報」。あなたの主張，伝えたいこと，知って欲しい本，御意見等に御利用ください。400字以内。住所とお名前，電話番号を原稿用紙にお忘れなく。但しこの欄は申しわけありませんが薄々謝も差し上げられませんので念のため。上記両方とも次号の締切は1983年10月末日。

宛先は　602 京都市上京区下立売通西洞院西入松香堂書店「ウイメンズ　ブックス係」です。

編集室から

◎今回の目録〝女性史〟は400冊以上にも及ぶ出版書籍がありました。その一冊一冊に女性の歩んできた足跡をみることができます。女性史研究の層の厚さを心強く感じました。特に暑い京都の夏の中での目録作りの作業を終えて，秋風の立つ頃会員の皆様にお届けすることを楽しみにいたしております。

◎今年発行の本誌では各書籍に解説をつけて充実した目録になるよう努力しています。当店取り扱いの書籍は昨年ご紹介した数の2倍にもなりましたが，整理番号は昨年掲載したものには同じ番号をつけて混乱しないようにしています。

◎次回は　自伝・評伝・ドキュメント　特集で12月中旬発行の予定です。ご推薦の自伝などありましたら編集室までご一報下さい。

（木下明美）